

ドバイのお茶事情 ～日常編～

18期 藤谷美子

2012年5月からドバイ在住の藤谷です。

この2年数か月の間に、ドバイでの生活にも大分慣れ、紅茶に関することは、豪華なホテルでのアフタヌーンティーをはじめ、現地のお宅にご招待される機会などにも恵まれました。今回は現地在住ならではの紅茶に関する事柄をご紹介できればと思います。

2012年の夏の終わりからアラビアンカリグラフィーの学校に通っています。

そこは、現地の人が主に通う本格的な教室で、日曜日から木曜日まで毎日授業があります。（こちらの休日は金曜と土曜です）教室に入ると一番奥に先生の机があり、生徒は順番に自分の課題を見てもらう、寺小屋スタイルで、1クラス25人まで、先生は1日1人。助手が3人。その助手が必ず紅茶を先生に運びます。



左下辺り、絵の具が何本か入った丸いお皿の左にある青系のチャイカップ。リプトンのイエローラベルのティーバッグ、ミルク無しが定番です。先生により、‘紅茶いる人は？’と聞いてくれる事もあります。



教室近くのスーク（古い市場）にあるお茶屋さん。ミントティーを注文すると、リプトンのイエローラベルとフレッシュミントの葉をグラスに入れたものを出してくれます。大抵の場合、5ディルハムでした。（130円ほど）リプトンのテーブルが置かれた、味のあるお茶屋さんでしたが、残念ながら火事になり、リニューアル後はこのテーブルでは無くなりました。

2013年の2月から3月にかけて、ドバイのお隣の首長国、シャルジャにある、シャルジャ大学の幾つかの学部が開催した、‘ジャパンデー’のボランティアをしました。これはある学部の男子校で煎茶のデモンストレーションの様子です。こちらでもグリーンティーはティーバッグなどで、普通に売られ、普通に消費されますが、大抵は中国産の緑茶で、日本の緑茶とは味も香りも違います。私が飲んで美味しいと思う煎茶を用意しましたが、何度も飲みに来てくれる学生もいれば、‘そこいら辺りに生えている草を茶にしたら、こんな感じだと思う。’と顔をしかめる学生もいました。



こちらでは同じ学部でも、男子と女子では建物が別になります。

同じ敷地内のお隣の建物、ではなく敷地から違います。きちんと塀や門で区切られています。女子校のボランティアもしましたが、日本が好きと言ってくれる学生やアニメから日本語を覚える学生も多く、時代劇調の日本語で話しかけられたり、新しい体験をしました。

今年に入りラクダ牧場を持つお宅のランチにご招待頂き、午前10時頃、国籍も人種も違う10数名揃って出かけました。

まず大広間に通され、アラビックコーヒーとデザートと紅茶を振る舞われました。どちらのお宅に伺ってもこの順番でもてなしを受けることが多いです。そしてどのお宅も玄関入るとすぐに大広間があり、中央に大きな絨毯が敷かれ、その絨毯を囲むようにソファが置かれています。50人は楽々座れる広さで、100人入ってもパーティーが開けそうです。そして、この日も女性のみ。



こちらのお宅のお嬢様方がアラビアンコーヒーを用意して下さる様子です。ここで、一人ずつ紹介され、お話をし打ち解けた頃合いで、裏手の砂漠に車で向かいます。



外から見ると小屋ですが



中は素晴らしいアラビアンスタイルです。



こちらでお料理を頂き、外のパティオでお茶とデザートを楽しみました。
後ろがランチを頂いた小屋です。

やはりアラビアンコーヒー〜デザート〜紅茶の順番でした。

雨がめったに降らないとは言え、パティオにも絨毯が敷かれています。



中央下が大ママです。

アラブの伝統的なブブカという仮面を着用されています。

そして、私がドバイに住んで感じる至福の時間。



絨毯屋で素晴らしい絨毯を見ながら紅茶を頂く一時です。来たばかりの頃は最初の1歩が出ずに躊躇していましたが、絨毯を探している友人たちと、絨毯屋巡りをして以来、1人でも堂々と入れる様になりました。ほとんどの絨毯屋は、好きなだけ絨毯を広げてくれて、紅茶でもてなしてくれます。コーヒーが出る事はなく紅茶です。

この絨毯屋はサフランティーを出してくれました。

スーパーで売られている紅茶はやはりリプトンのイエローレーベルが売れ筋ですが、(200 ティーバッグ Dhs21.75=約¥550 得価価格) グリーンティーにレモンやオレンジの香り付もごくごく一般的です。



最後になりましたが、こちらの方、特に女性はお顔を出す事を嫌います。
今回は特別に許可を頂きました為、転載、使用は固くお断りさせていただきます。
どうぞご理解のほど、よろしくお願い致します。